

キャッチング・ザ・スティック



横一列に右端から8人が、1人2本のスティックを持ち、“トントン”的リズムにあわせてスティックを突き、“パツ”のと離して、素早く右へ横移動。何回続けてキャッチできるかを楽しみます。チャレンジ・ザ・ゲームの種目の中で初期に開発された種目で、幅広い年齢層で楽しめ、長く愛好されています。

★人 数

1チーム10人

★隊 形

メンバーの内8人が1人2本のスティックを両手で持ち、横一列に並ぶ。スティックを持っていない2人は列の左端につく。

★用 具

CG推進本部公認スティック16本

☆ルール

チームのリーダーが「せ～の」の掛け声を掛け、「トン、トン」とスティックを2回床に打ちつける。

打ちつけた後、2本のスティックを8人同時に、パツと離し素早く右へ移動し、右隣の人のスティック2本をキャッチする。この時点からカウントを開始する。

右端の人は、速やかに左端へ移動する。

カウントは全員が右へ移動するたびに行う。

1人でもスティックのどちらかを床に倒してしまうか、他のメンバーがスティックに触れ、支えた場合はその時点で終了となる。

チャレンジは3回までとし、その中の最高記録をそのチームの記録とする。

チャレンジごとのメンバーの並びかえは認められる。

チャレンジ間の作戦タイム、休憩タイムは30秒以内とする。

●アウト

「トン、トン」の時、1人でも床からスティックを浮かしていない者がいた時。

次の人気がキャッチしやすいようにスティックを押されたまま手渡した時。

「せ～の」などの開始の掛け声は最初の1回だけ。

「トン、トン、パツ」のテンポが遅すぎた時。最低1分間に96拍(10秒間に4回以上)以上の速さで実施する。

わなげ9 & Q

◎「わなげ9 & Q」とは

わなげ9 & Qは、従来のわなげの方法で、台の形を変えることにより通常のわなげから難易度を高めたものまでさまざまなゲームを楽しむことができます。

◎用 具

リング 赤3 青3 黄3

組み立て用ボード



◎人 数

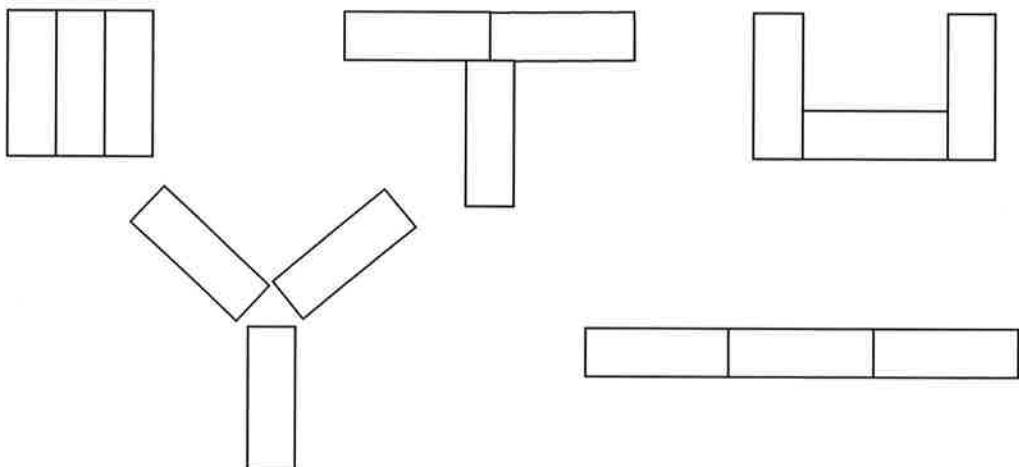
2人～

◎場 所

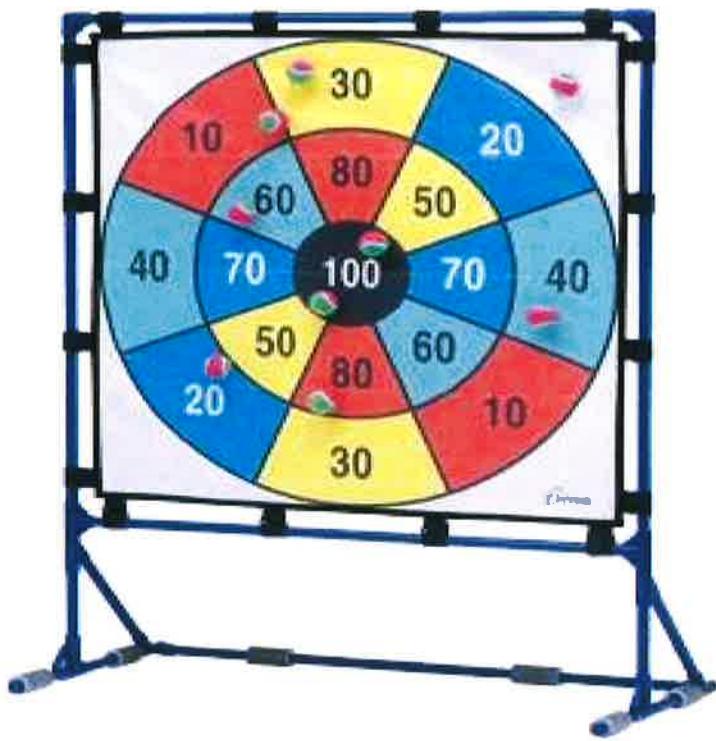
最小スペース 約1m×6m

◎ゲーム概要

- ① わなげ台は、3枚のボードで構成されており、4枚の金属プレートで簡単に組み立てられます。
- ② ボードには、「1」から「9」までの数字が書いてあり、縦、横、斜めの合計点数が「15」になるようになっています。それぞれのラインの組み合わせにより高得点を得られるなどさまざまなルールを設定することができます。
- ③ 公式ルールでは、5mの距離から片手で投輪し、交互に行います。(身体条件等に応じて距離を変える場合があります。)
- ④ わなげ台の組み合わせ



ターゲットゲーム



【遊び方】

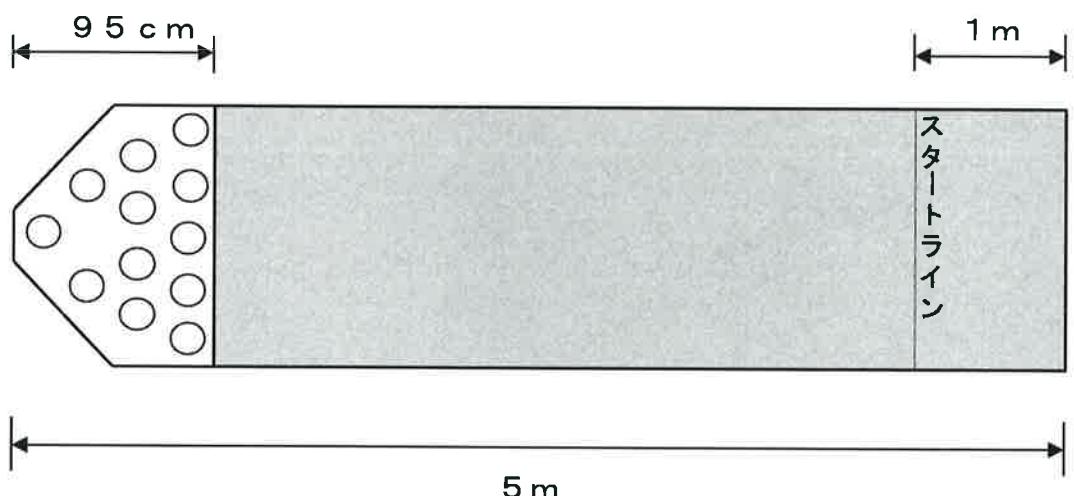
投げたボールがシートにくっつく、マジックテープ式の
ボール的当てゲームです。

ボールやパネルが飛び散らないので、狭い室内でも楽しむ
ことが出来ます。

- ・幅104×奥行100×高さ131cm
- ・ターゲット部90×90cm

シートを替えて楽しさアップ！
シートの交換は簡単に行っていただくことができます。

スカットボール



スカットボール得点票

チーム名	1	2	3	4	5	合計
赤						
白						

スカットボール得点票

チーム名	1	2	3	4	5	合計
赤						
白						

スカットボール ルール

◎用 具

- スティック
- ボール 赤5個・白5個
- スカット台 1台

◎人 数

個人又は団体(10人まで)(1対1~5対5)で行う。

◎場所・コート

マットが敷ける平らなところならどこでも可

◎競技内容

- ◇敷物(マット)の上にスカット台を乗せ、ボールをスタートラインからスティックで打って、スカット台の得点穴にボールを入れる競技である。
- ◇競技は、団体又は個人で行い得点の高い穴に多く入れ、合計得点を競うゲームである。
- ◇1人1回5個の持ち球で打つことができる。

◎競技方法

- ◇競技は、チーム対抗形式で1チーム1名~5名の競技者によって行う。
- ◇競技前に代表者のジャンケンによって先攻を決める。
- ◇先攻は赤玉、後攻は白玉を使用する。
- ◇競技者は1人5個の球を持ちスタートラインに立って、スティックでスカット台の穴に向かってボールを打ち入れる。(5球すべて打ち終わったら点数を計算し、後攻と交代する)
- ◇赤玉5個、白玉5個交互に行い、スカット台の得点の合計を記録する。
- ◇持ち玉5個全部が穴に入った場合、パーフェクトチャンスとして、さらに1イニング(球5個)を打つことができ、得点は加算される。

◎勝敗の決定

5イニング終わった時点で赤、白の合計点の多いチームが勝ちとする。同点の場合、各チームの代表者1名により決定戦を行う。(サドンデス方式)

◎スカットボール採点の仕方

(例) 30対24で赤の勝ち

チーム名	1	2	3	4	5	合計
赤玉	5	8	0	3	14	30
白玉	10	3	7	1	3	24